

第 586 回：論文執筆の取り組み方（2 回目）（MS）

みなさんこんにちは、火曜日担当の MS です。今回の LA 通信は、前回に引き続き「論文執筆の取り組み方」について扱っていきます。

前は、私が論文の執筆をどう進めているかについて、大まかにご紹介しました。2 回目となる今回は、具体的に何をしていくのがおすすめなのかご紹介していきます。

まず論文の執筆を始める際に考えたいのは、何について書くかということです。授業レポートの場合は、先生から事前の指示があるはずですから、それに従いましょう。卒論の場合は、書き始める前に先生と相談することをおすすめします。なぜなら、自分が書きたいことと、指導教員が教えられることとの兼ね合いがあるからです。先生に相談するのが難しい場合は、友達と意見交換したり、LA に相談したりする選択肢もあります。

次に、具体的にどういった事柄を扱うか考えていきます。授業レポートの場合だと、授業のハンドアウトやノートを見返すといいでしょう。これにより、自分の関心のある事柄を特定できると思います。おすすめは、授業の説明では納得できなかったことや、疑問に思った点がないかどうか考えることです。これを行うことで、後々自分がその問題意識や違和感を抱くに至ったかを、筋道立てて説明する際に役立ちます。

とはいえ、具体的な課題が与えられていないレポートや卒論だと、何を扱うべきか迷ってしまうこともあるかと思います。そんな時は、いったん自分の関心のあることに打ち込むのをおすすめします。本を読んだり、ドラマを見たり、ゲームをしたり、料理をしたり、

とにかく自分の好きなことをしてみましょう。ここで断っておきたいのは、論文執筆をサボることをおすすめしているわけではないということです。あくまで、自分の興味のあることを起点に、自分が関心のある言語現象や社会的な問題を見つけることをおすすめしているだけです。

例えば、日本のアニメや漫画を鑑賞していると、登場人物のことばに特徴があることに気づきます。特定の語尾があったり、一人称が特殊だったり、状況によってそれが変化したりすることがあります。なぜ日本語ではそうした表現が使われるのでしょうか。また、英語やほかの言語ではどうなっているのでしょうか。そういった表現は、外国語に翻訳されたらどうなってしまうのでしょうか。

このような、身の回りにあるごく当たり前だと思っている事柄であっても、よくよく考えれば気になるところがあると思います。そういった素朴な疑問について、論文で扱うのがおすすめです。せっかく論文を書く機会が与えられているのですから、関心のあることについて書くのがいいと思います。そのほうが執筆のハードルも低くなりますし、楽しんで取り組んでいけるとと思います。苦しんで論文を執筆せよという指示はないのですから。

次回以降も引き続き、1 回目で提示した執筆の手順をもとに、より具体的な執筆方法について論じていきます。それでは。